日本薬学会第136年会(横浜) 一般シンポジウム S53

改訂モデル・コアカリキュラムと 薬学実務実習ガイドラインに沿った 実務実習に向けて

S53 改訂モデル・コアカリキュラムと薬学実務実習ガイドラインに沿った 実務実習に向けて

本シンポジウムのプログラム

イントロダクション

薬学教育協議会において取り組むべき事項への対応

メインプレゼンテーション

1) 実務実習事前調査アンケートについて

(明治薬大 伊東明彦教授)

- 2) ワークショップとアドバンストワークショプのこれから
 - (阪大院 平田收正教授)
- 3) 大学と実務実習施設との連携におけるWEBシステム の利用 (慶応大薬 木津純子教授)
- 4) 現行の実務実習に関連したトラブルとその対応 (薬学教育協議会 阿刀田英子)

ディスカッション・総括

6年制薬学教育に対応するカリキュラム

6年制薬学教育において、

科学の進歩に合った学生の育成、社会の要求を 満たす学生の育成には、教育内容の見直しが必要。



知識偏重ではなく、技能、態度もバランスよく 教育するための

> モデル・コアカリキュラム を作成する。

現行の薬学教育モデル・コアカリキュラム

平成18年~平成26年度薬学部6年制課程入学者に適用

日本薬学会 (平成14年8月)

「薬学教育モデル・コアカリキュラム」

薬剤師、薬学研究者等を目指す学生が学んで欲しい内容を整理した薬学専門教育のガイドライン。

1,446項目の目標



<u>実務実習を除いたカリキュラムの</u> 約7割に相当

残り3割は大学の特徴を出す科目

文部科学省(平成15年12月)

「事前学習・病院実習・薬局実習モデル・コアカリキュラム」 の目標、方略を作成し、その後評価(案)も作成。

事前学習 77 SBOs, 1ヶ月 薬局実習 116 SBOs, 2.5ヶ月 が 病院実習 *108 SBOs,* 2.5ヶ月

モデル・コアカリキュラム改訂の必要性

薬学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議 新薬剤師養成問題懇談会(新六者懇) 平成22年にコアカリ改訂のアンケート 薬学関連の諸団体、会合など

- ▶ 六年制教育が導入される前に作成されたので実情に合わない部分がある
- ▶ コアなのに内容が多過ぎて、教育する上で余裕が無い。スリム化が必要
- ▶ 基本的には各分野の積み上げ方式なので、分量が多くなる
- ▶ 各大学の自主性が発揮できない。
- ➤ 時代遅れなど、現状に合わないSBOがある
- ▶ 実務実習のコアカリは、方略が中心である
- ▶ これからの薬剤師の業務には内容が不足している
- ▶ 基礎教育が多すぎ、実務教育が軽視されている

などなど

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムの構成

【現行薬学教育モデル・コアカリキュラム】【改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム】

- A 全学年を通して
 - : ヒューマニズムについて学ぶ
- **B** イントロダクション
- C 薬学専門教育(C1-C18)

【実務実習モデル・コアカリキュラム】

- I 実務実習事前学習
- Ⅱ 病院実務実習
- Ⅲ 薬局実務実習

- A 基本事項
- B 薬学と社会
- C 薬学基礎
- D 衛生薬学
- E 医療薬学
- F 薬学臨床(実務実習)
- G 薬学研究

現行モデル・コアカリキュラム 実務実習

I. 実務実習事前学習

- ① 事前学習を始めるにあたって
- ② 処方せんと調剤 ③ 疑義照会
- 4 医薬品の管理と供給
- ⑤ リスクマネージメント ⑥ 服薬指導と患者情報
- ⑦ 事前学習のまとめ

Ⅱ. 病院実習

- ① 病院調剤を実践する
- ② 医薬品を動かす・確保する
- ③ 情報を正しく使う
- 4 ベッドサイドで学ぶ
- ⑤ 薬剤を造る・調べる
- ⑥ 医療人としての薬剤師

Ⅲ. 薬局実習

- ① 薬局アイテムと管理
- ② 情報のアクセスと活用
- ③ 薬局調剤を実践する
- ④ 薬局カウンターで学ぶ
- ⑤ 地域で活躍する薬剤師
- ⑥ 薬局業務を総合的に学ぶ

改訂モデル・コアカリキュラムF 薬学臨床(実務実習)

(1)薬学臨床の基礎

- ①早期臨床体験 ②臨床における心構え
- ③臨床実習の基礎

(2)処方せんに基づく調剤

- ①法令・規則等の理解と遵守 ②処方せんと疑義照会
- ③処方せんに基づく医薬品の調製
- ④患者・来局者応対、服薬指導、患者教育
- ⑤医薬品の供給と管理 ⑥安全管理

(3)薬物療法の実践

- ①患者情報の把握 ②医薬品情報の収集と活用
- ③処方設計と薬物療法の実践(処方設計と提案)
- ④処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果 と副作用の評価)

(4)チーム医療への貢献

- ①医療機関におけるチーム医療
- ②地域におけるチーム医療

(5)地域の保健・医療・福祉への参画

- ①在宅医療・介護への参画 ②地域保健への参画
- ③プライマリケア、セルフメディケーションの実践
- ④災害時医療と薬剤師

薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂 のポイント

- 1. 「薬剤師として求められる基本的な資質」に基づいてGIO、 SBOsを見直したこと。
- 2. 学習成果基盤型教育(Outcome-based Education (OBE))の考え方を導入したこと。従来は、教育目標基盤型教育若しくはプロセス基盤型教育
- 3. 改定後のカリキュラムで学んだ学生が社会に出た時(10年後)の薬剤師が必要とする新たな内容を含むこと。そのため、現行のカリキュラムの枠を超えた議論がなされた。(F薬学臨床)
- 4. 実務実習カリキュラム(F 薬学臨床)において方略は 作成されなかった。

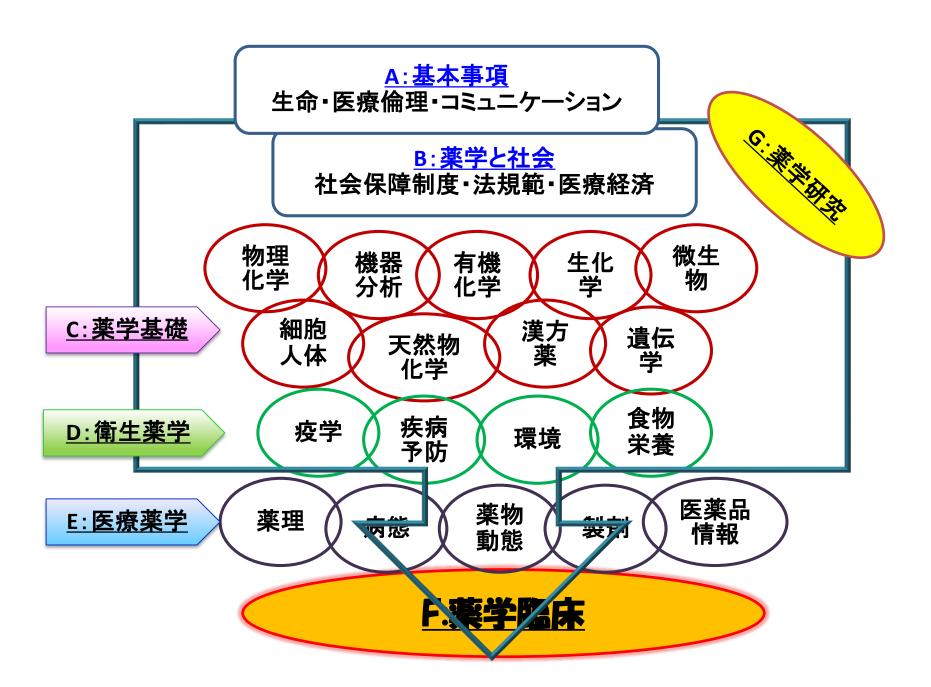
薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂 のポイント

薬剤師として求められる基本的資質

豊かな人間性と医療人としての高い使命感を有し、生命の尊さを深く認識し、生涯にわたって薬の専門家としての責任を持ち、人の命と健康な生活を守ることを通して社会に貢献する。

また、学習成果基盤型教育(OBE)の考えを導入し、 6年卒業時に必要とされている資質を以下の10の視点から 明示した。

- (1)薬剤師としての心構え (2)患者・生活者本位の視点
- (3) コミュニケーション能力 (4) チーム医療への参画
- (5) 基礎的な科学力 (6) 薬物療法における実践的能力
- (7) 地域の保健・医療における実践的能力
- (8)研究能力 (9)自己研鑽 (10)教育能力



改訂モデル・コアカリキュラムに対応した 実務実習の開始に向けた今後のスケジュール

25年度 (2013年度)	改訂モデル・コアカリキュラムの完成		
26年度 (2014年度)	各大学における 円滑な実務実習に向けての検討 カリキュラム改訂作業 (薬学実務実習に関する連絡会議等)		
27年度 (2015年度)	新カリキュラムの適用 (1年次)		
28年度	(2年次) 各大学、各団体、各実習施 設での準備、試行、検証		
29年度 (2017年度)	(3年次) 実習施設の充実 等		
30年度 (2018年度)	(4年次) 改訂コアカリに基づく 共用試験		
31年度 (2019年度)	(5年次) 改訂コアカリに基づく実務実習		

薬学実務実習に関する連絡会議 平成25年11月 新薬剤師養成問題懇談会(新6者懇)

目的「改訂コアカリ」に基づく薬学実務実習の在り方、 実施体制等の大枠や方針について、関係機関 間の調整を図る。各機関の役割や検討事項を明 確化し、その取り組みへと引き継ぐ。

構成員

- ·国公立大学薬学部長(科長·学長)会議
- ·日本私立薬科大学協会
- ·日本病院薬剤師会

·日本薬剤師会

·文部科学省

·厚生労働省

·薬学教育協議会

- ·日本薬学会薬学教育委員会
- ・薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門研究委員会
- ·大学関係者

薬学実務実習に関する連絡会議 平成25年11月 新薬剤師養成問題懇談会(新6者懇)

検討事項

- (1)改訂コアカリに基づく薬学実務実習の在り方
- (2)薬局実習と病院実習の区分、分担
- (3)方略作成の必要性について
- (4)実習施設の確保
- (5)その他、必要な事項



薬学実務実習に関するガイドライン

(平成27年2月)

薬学実務実習に関するガイドライン

(薬学実務実習に関する連絡会議)

大学の臨床準備教育及び実務実習 を適正に実施するための指針

「ガイドラインの実効性の担保」は 実務実習に関わる諸機関の重大な責務

そのためには、

改訂コアカリ準拠の実務実習開始(平成31年度) に向けて

現状を検証し、課題を明確にし、対応策を検討する必要がある。

平成31年度以降に向けて取り組むべき事項

- 一貫性のある病院・薬局実習の実施(連続した病院・薬局実務実習)
 - ◎実習順序をも考慮した4期制による実習施設の確保
 - *4期制による実習施設の確保と調整方法の検討
 - *病院実習・薬局実習の順序の検討
 - ◎大学・病院・薬局の連携体制の構築
 - *連携ツールの活用

質の高い参加・体験型実習実施のための環境整備と実習内容標準化(公平化)

- ◎実習施設要件に基づいた実習施設の管理・評価
 - *実習施設の質の向上と質の高い実習施設の確保
 - *実習受け入れ施設の概要および実習内容の把握と評価
 - *代表的な8疾患への参加・体験実習の担保、 (地域完結型グループ実習、一施設あたりの受入れ人数をも考慮した 実習施設の確保)
- ◎指導薬剤師の養成と指導力の向上
 - *ワークショップの内容の検証と改善・充実
 - *OBEに基づく教育評価(アドバンストワークショップ)

薬学教育協議会・地区調整機構として

平成31年度以降に向けて取り組むべき事項

- (1) 病院・薬局実務実習の一貫性の担保
 - ▶大学が主導する大学・病院・薬局間の円滑な連携の構築

- (2) 実習施設の確保と実習の質の向上
 - •病院実習・薬局実習の順次制と適正な実習期間
 - ・代表的な8疾患への参加・体験実習の担保

- (3) 認定指導薬剤師の養成・質の向上
 - ワークショップの内容の検証と改善・充実

薬学教育協議会・地区調整機構の

今年度の取り組み

- (1) 病院・薬局実務実習の一貫性の担保
 - ・大学が主導する大学・病院・薬局間の円滑な連携の構築
- ▶ 薬学実務実習に関する事前調査 ・連携ツールの活用について
- (2) 実習施設の確保と実習の質の向上
 - •病院実習・薬局実習の順次制と適正な実習期間
 - •代表的な8疾患への参加・体験実習の担保
- ▶ 4期制による各地区実習生受け入れ数の調査 8疾患実施可能な施設の調査、地域完結型連携体制づくり
- (3) 認定指導薬剤師の養成・質の向上
 - ・ワークショップの内容の検証と改善・充実
- > アドバンストワークショップの実施

OBEに対応する新たな教育の技法(パフォーマンス評価等)の理解

S53 改訂モデル・コアカリキュラムと薬学実務実習ガイドラインに沿った 実務実習に向けて

メインプログラム

- 1) 実務実習事前調査アンケートについて (明治薬大 伊東明彦教授)
- 2) ワークショップとアドバンストワークショプの (阪大院薬 平田收正教授)
- 3) 大学と実務実習施設との連携における WEBシステムの利用 (慶応大薬 木津純子教授)
- 4) 現行の実務実習に関連したトラブルとその対応 (薬学教育協議会 阿刀田英子)

ディスカッション・総括

改訂モデル・カリキュラムに基づいた

薬学実務実習に関する事前調査の概略

(薬学教育調査·研究·評価委員会 明治薬大 伊東明彦教授)

【対 象】実務実習に関わる全国の医療提供施設(病院・薬局) 【方 法】各地区調整機構を通して回答依頼 薬学教育協議会ホームページにおいてWEB回答 【回答期間】2015年8月18日~9月18日/11月2日~11月30日

【調査内容】

- 実習施設の概要 薬剤師数、認定実務実習指導薬剤師数 等
- 4期のうちの3期での受け入れ可能人数
 - ① Ⅰ期(2月中旬~)、Ⅱ期(5月下旬~)、Ⅲ期(9月初旬~)
 - ②Ⅱ期(5月下旬~)、Ⅲ期(9月初旬~)、Ⅳ期(12月初旬~)
- 代表的8疾患の取り扱いの有無
- 実習施設における実習内容の実施状況の確認

調査の背景(回収率)

地区	回答施設数/依頼施設数(回収率%)		
	薬局	病院	
北海道	152/272 (55.8)	87/120 (72.5)	
東北	271/435 (62.3)	101/133 (75.9)	
北陸	209/544 (38.4)	64/69 (93.0)	
関東	2118/3209 (66.0)	555/1467 (37.8)	
東海	259/482 (53.7)	99/132 (75.0)	
近畿	903/1390 (65.0)	448/333 (74.3)	
中国・四国	526/897 (58.6)	178/237 (75.1)	
九州・山口	481/753 (63.9)	170/298 (57.0)	

指導薬剤師の養成・質の向上への取り組み

(薬学教育者ワークショップ実施委員会 阪大院薬 平田收正教授)

- > 学習成果基盤型教育 (OBE)の考えを導入した 指導薬剤師養成ワークショッププログラムの改訂
 - ·文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム事業 (大阪大学が受託)との連携事業
- ▶ タスクフォース経験者を対象とした全国スキルアップ研修会
 - ・OBEに対応する新たな教育の技法(パフォーマンス評価等)の理解のためのワークショップ・・近畿、東海、関東地区調整機構で4回開催
- » 実習生受け入れ施設の認定実務実習指導薬剤師を対象とした アドバンストワークショップ
 - ・各地区調整機構で実施
- ▶ 改訂指導薬剤師養成ワークショップの開催

大学と実務実習施設との円滑な連携を目的とした WEBシステムの活用に関するアンケート調査

(WEBシステム検討委員会 慶應大薬 木津純子教授)

- ≻薬学教育協議会にWEBシステム検討委員会を設置
- ▶全薬科大学・薬学部、薬剤師会、病院薬剤師会を対象 にWEBに最小限搭載すべき機能、搭載が望まれる機能に ついてアンケート調査を行った。
- >70大学、57薬剤師会・病院薬剤師会から回答
- ▶調査結果をもとに、大学・指導薬剤師が望む搭載すべき 内容を各システム作成者に提案する。
- ▶構築されたシステムについて、薬学教育協議会が確認し 認証する。

実務実習に関連したトラブルとその対策

(病院·薬局実務実習中央調整機構委員会 薬学教育協議会 阿刀田英子)

日本私立薬科大学協会

調査項目

- ・大学における課題
- ・実習施設における課題
- 大学の実習施設の連携
- 実務実習内容に係る問題
- ・実務実習費に関する問題
- その他

薬学教育協議会•地区調整機構

調査項目

- 実習時のトラブルについて
- 大学と施設の連携について
- ・実習に関する学生の意見
- ・実習に関する病院の意見
- ・実習に関する薬局の意見
- Webによる連携状況について
- ・評価実施について